

令和 6 年度 大阪市立北区大淀老人福祉センター 事業実績報告書

施設概要

施設名	大阪市立北区大淀区老人福祉センター 愛称：大淀はつらつセンター
所在地	大阪市北区本庄東 1 丁目 2 4 番 1 1 号
施設規模	鉄筋コンクリート造 2 階建のうち 1 階 延床面積 504,90㎡
主な施設	大広間、会議室、講習室など
市が設定した数値目標	センター利用者向け実施する満足度調査で、「満足と回答される方」の割合を 85.6%以上とする。(市内 26 館における過去 3 年間の平均) 令和 2 年度から 4 年度の平均年間利用人数 : 11,031 人 令和 2 年度から 4 年度の平均年間登録人数 : 182 人
令和 6 年度満足度 令和 6 年度利用人数 令和 6 年度登録人数	82% (82/100) ※母数を明記すること。 17,587 人 215 人

指定管理者

団体名	社会福祉法人 大阪市北区社会福祉協議会
事務所の所在地	大阪市北区神山町 1 5 番 1 1 号
代表者	会長 小玉 始
指定期間	令和 6 年 4 月 1 日から令和 11 年 3 月 31 日
報告対象期間	令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日
担当者	北区大淀老人福祉センター 館長 桑田照也
連絡先	(06) 6374-0873

1 指定管理業務の実施状況

(1)施設の運営方針

①高齢者福祉の拠点づくり・孤立防止

- ・高齢者の居場所の維持・充実
- ・孤立傾向にある高齢者の参加を促進

②人材の育成・生きがいづくり

高齢者が健康で生きがいをもって自立した生活が送れるよう支援を実施。

- ・多彩な教養講座、セミナー、行事を通じて生きがい探求の場を提供
- ・サークル活動や同好会などの自主的な活動を支援
- ・高齢者の社会参加を支援するため、おもちゃ病院・スマホ相談会を共催し活動につなげた。

③介護予防や認知症予防の啓発

- ・閉じこもりがちな高齢者にラジオ体操・百歳体操の場を提供した。

(2)建物の維持管理

〔定期的保守点検と法定点検〕

- ・自動ドア保守点検(令和6年6月13日、令和6年10月11日、令和7年2月7日)
- ・消防用設備等総合点検・機器点検(令和6年8月22日、令和7年1月9日)
- ・特定建築物等定期点検(令和6年8月29日)
- ・非常／火災通報装置保守点検(令和6年12月24日)
- ・建築物及び設備総合自主点検の実施(令和6年6月28日、令和6年12月28日)
- ・空調巡視点検(年12回)

(3)職員の配置状況

施設長 1名・嘱託職員 3名

(4)危機管理・安全管理

- ・消防計画(令和6年9月27日) 北消防署へ提出
- ・自衛消防訓練を実施(第1回:令和6年11月26日、第2回:令和7年3月18日)
第1回訓練では、自主訓練(通報・避難・消火)を実施した。火災通報(シミュレーション)訓練、避難経路を確認の上での実地訓練を職員で実施した。
第2回訓練では、子ども・子育てプラザ利用者も参加して、北消防署の指導を受けた。また、消火器噴霧の実地指導を受けた。消火器の場所確認の必要性につき、助言いただいた。
2回の訓練共、併設施設(子ども・子育てプラザ)職員と合同実施し、お互いの防災意識を高める事ができた。
- ・防災訓練の実施(令和6年8月25日)
北区社会福祉協議会の全職員で災害ボランティアセンター立上げのシミュレーション訓練を実施した。

2 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利 用入 数	1,307	1,259	1,516	1,413	1,164	1,711	1,560	1,616	1,423	1,493	1,431	1,694	17,587
登録 者数	141	21	21	2	3	4	11	0	4	3	3	2	215

3 実施事業(1)事業報告

①事業計画 (P)

ア 毎日又は開催回数の多い事業

- ・ラジオ体操(毎日／年間5,000名)
- ・囲碁・将棋(毎日／年間2,000名)

- ・バンパー (毎日／年間 250 名)
- ・百歳体操 (週 4 回／年間 2, 280 名)
- イ 健康関連 講座・セミナー
 - ・健康講座 (年 7 回／年間 140 名)
 - ・体調改善運動講座 (月 1 回／年間 240 名)
 - ・脳活性化教室 (月 2 回／240 名)
 - ・男の運動塾 (月 1 回／180 名)
- ウ ボランティア育成
 - ・おもちゃ病院の運営 (月 1 回／年間 120 名)
 - ・スマホ相談会 (年 6 回／年間 72 名)
- エ 世代間交流 (子ども・子育てプラザとの共催)
 - ・(おおよど盆おどり) (年 1 回／200 名)
 - ・(将棋・バンパー) (年 2 回／10 名)
- オ アウトリーチ
 - ・歌広場 (大淀福社会館) (年 6 回／200 名)
 - ・歌声 (本庄会館) (年 6 回／100 名)
- カ 公的団体が企画する講座
 - ・お口の健康セミナー (年 1 回／20 名)
 - ・住まいのよろず相談会 (年 1 回／4 名)
 - ・結核健診 (年 1 回／10 名)

②活動内容 (D) (今年度の取組内容)

- ア 毎日又は開催回数の多い事業
 - ・ラジオ体操 (毎日／年間 4, 571 名)
 - ・囲碁・将棋 (毎日／年間 1, 827 名)
 - ・バンパー (毎日／年間 223 名)
 - ・百歳体操 (週 4 回／年間 2, 284 名)
- イ 健康関連 講座・セミナー
 - ・健康講座 (年 7 回／年間 121 名)
 - ・体調改善運動講座 (月 1 回／年間 216 名)
 - ・脳活性化教室 (月 2 回／年間 322 名)
 - ・男の運動塾 (月 1 回／年間 128 名)
- ウ ボランティア育成
 - ・おもちゃ病院の運営 (月 1 回／年間 154 名)
 - ・スマホ相談会 (年 6 回／年間 58 名)
- エ 世代間交流 (子ども・子育てプラザとの共催)
 - ・おおよど盆おどり (年 1 回／年間 103 名)
 - ・将棋・バンパー (年 1 回／年間 3 名)
- オ アウトリーチ
 - ・歌広場 (大淀福社会館) (年 6 回／年間 173 名)
 - ・歌声 (本庄会館) (年 6 回／年間 137 名)

カ 公的団体が企画する講座

- ・お口の健康セミナー（年 1 回／年間 1 9 名）
- ・結核健診（年 1 回／年間 1 0 名）
- ・高齢消費者講座（年 1 回／年間 1 4 名）

キ その他

- ・英会話体験（年 1 回／年間 1 1 名）

③チェック (C) (成果、課題)

長期のトイレ改修工事等で利用人数に影響が出たが、一定数の御利用をいただいた。以下、成果と課題を記す。

ア 毎日又は開催回数の多い事業

＜成果＞ ラジオ体操は毎日来られる利用者が多く、健康の維持・増進に大きく寄与していると感じる。昨年度程の参加人数ではなかったが、隣接する保育園児と一緒に体操を行う高齢者の笑顔が印象に残る。また、トイレ改修工事の影響がある中、囲碁・将棋について、計画の 9 0 % 以上の御利用となり、相当数御利用いただいた。熱心なリピーター利用者が多い人気事業である百歳体操の利用者数について、目標を達成した。

＜課題＞ 全体的に共通しているが、新規利用者の参加が課題となっている。

イ 健康関連 講座・セミナー

＜成果＞ 健康関連事業のメニューの多さは当センターの大きな特徴でもあり、今年度も多様な講座・セミナーを開催出来た。男の運動塾は男性限定の講座であり、男性利用者増に貢献出来た。

＜課題＞ 利用者数について、脳活性化教室は達成し、それ以外の講座についてもほぼ達成となったが、定員増が課題となっている。

ウ ボランティア育成

＜成果＞ おもちゃ病院は親子が揃って来訪するケースが多く、ボランティアへの信頼が厚く、利用者数について目標を達成した。また、スマホ相談会は、高齢者ボランティアが利用者から相談を受ける形式で実施中であり、相当数御利用いただいた。

＜課題＞ おもちゃ病院は修理に時間がかかるケースが多く、時間内にゆっくりと来訪者対応する点で厳しい一面がある。スマホ相談会はニーズが高まっており、定員増が課題となっている。



エ 世代間交流（子ども・子育てプラザとの共催）

＜成果＞ 子ども・子育てプラザが併設されている「地の利」を活かしての事業。

(様式 1)

両施設の利用者が参加する盆おどりは、100名を超える参加となり、熱気で包まれた。例年、子育てプラザの軽運動室を活用して開催しており、地域の太鼓のたたき手を招き、また、大淀老人福祉センターの民踊サークルが盆踊りを牽引した。

＜課題＞ 大淀老人福祉センターの利用者の盆おどり参加が参加を促すも限定的であり、参加形態が課題となっている。



オ アウトリーチ

＜成果＞ 歌広場は季節毎の名曲を講師が選定して合唱する市内各老人福祉センターで開催中の人気事業の「出前」講座。老人クラブ職員と連携して実施中。利用者の高い支持率を維持している。歌声サロンと合計で目標参加者数を達成。

＜課題＞ 日程の関係で、開催場所及び講師スケジュール確保が課題となっている。

カ 公的団体が企画する講座

＜成果＞ 大淀歯科医師会、大阪市保健所、大阪弁護士会とコラボして企画を実施。健康に関心を持つ利用者や高齢消費者対応に関心を持つ利用者の指示を得た。

＜課題＞ 目標参加者数を達成し、特段の課題は無い。

④改善策（A） （次年度に向けた改善内容）

ア 毎日又は開催回数の多い事業

リピーター参加率が特に多い事業であり、新規利用者の参加を促したい。センター便り、館内告知、館内声掛け等を行いたい。

イ 健康関連 講座・セミナー

1 講座開催あたりの受講者人数を限定するという講師の方が多いため、量より「質」重視、コンテンツ重視となっているが、講師と連携し定員増について検討したい。

ウ ボランティア育成

スマホ相談会は、ボランティアへの勉強会を北区社会福祉協議会（生活支援G）から行い、ボランティアのモチベーション向上を目指す。また、ボランティア人数増等で定員増を目指したい。

エ 世代間交流（子ども・子育てプラザとの共催）

大淀老人福祉センター利用者の盆踊り積極参加の方法を模索する。

オ アウトリーチ

地域住民の参加希望者が多い点に関し、老人クラブと協力し、地域への声掛けを積極的にいき、また、開催場所の確保方法を検討し、アウトリーチ事業の活性化を目指す。

- カ 公的団体が企画する講座
公共施設へのビラ掲示や広報を継続して実施する。

(2) 平等利用の確保

利用者拡大策として令和5年度の事業評価ヒアリングでアドバイスを受け、令和5年度10月より実施しているスーパーマーケット2店へのセンターだよりの配付・掲示を、継続して実施した。また、LINE公式アカウント利用による発信も継続実施中であり、案内直後に反響があり、効果は大きい。また、「地域集会所」や「福祉会館」での出前講座（アウトリーチ）の開催を老人クラブと協力して行うことで、遠方利用者の便宜を確保出来た。

(3) 利用者サービスの向上策

アンケート調査の実施、目安箱の設置により、要望や苦情を受け止めた。「サークル代表者会議」を定期的に開催して、意見を収集して事業運営に反映出来た。

(4) センターの利用促進策

サービス内容の周知と施設の場所等の周知を行った。

- ・センターだよりの内容をより充実、チラシ・ポスターの工夫
- ・北区広報紙「わがまち北区」にイベント掲載依頼
- ・LINE公式アカウントを利用したリアル情報発信。
- ・スーパーマーケット（2店舗）でのセンターだより配布・掲示

(5) 利用者からの苦情・意見・満足度の把握

利用者向けアンケートを、11月6日～12月7日の期間で実施した。

有効回答数は147名（男27名、女120名）。登録者数203名の約72%が回答。

当センターの総合満足度（満足・やや満足と回答した人の割合）は、82%と目標をやや下回った。

また、苦情・要望の内容 ⇒ 対応内容は次の通り。

- ・館内トイレの改修 ⇒ 令和7年2月完了
- ・サークル、講座の参加人数を増やしてほしい⇒サークルの順番待ち利用者について利用開始、講座について講師に相談し、令和7年度より定員増

4 その他

(1) 地域との連携

- ・子ども子育てプラザと共催の世代間交流事業を実施
- ・北区に所在する行岡医学技術専門学校実習生の臨地実習の場として受入れ、宝塚大学の実習生を受入れ

(2) 人材育成・ボランティア活動支援等

- ・利用者がセンター施設内の植栽活動（年1回）に職員と共に参加
- ・センターイベント時に併設する喫茶（カフェ de おおよど）で給茶お手伝いを利用者が実施（年2回）

- ・有償ボランティア活動「まちとも」と連携して、活動者の層を拡大し、高齢者が高齢者を支える仕組みを強化。有償ボランティア活動「まちとも」の説明会を行った。



- ・行事ごとに依頼していたボランティアについて、百歳体操のサポーターやセンターイベント時に併設する喫茶（カフェ de おおよど）で給茶お手伝いの利用者を中心としてボランティアグループ「はつらつ会」の立上げを行い、また、令和6年度の事業評価ヒアリングでアドバイスいただいたセンター運営の中心的利用者となるセンターキーマンの候補とすることが出来た。

(3) 職員研修の実施状況

- 5月29日 職員研修「文書・経理事務」
- 6月18日 職員研修「コンプライアンス研修」
- 8月27日 職員研修「第1回人権研修」
- 9月6日 職員研修「AED講習会」
- 10月23日 職員研修「第2回人権研修」
- 12月11日 職員研修「福祉の基礎理解及び第3期大阪市地域福祉活動推進計画に基づく事業推進」

(4) 個人情報の保護・情報公開について

- ・館の活動により知り得た個人情報については細心の注意を払っている。
- ・大阪州市社協の実施する「コンプライアンス及び個人情報保護」教育に参加すると共に日頃から職員間において個人情報に対する啓発に努めている。

大阪市北区社会福祉協議会個人情報保護規程

大阪市北区社会福祉協議会個人情報保護に関する指針

大阪市北区社会福祉協議会におけるコンピューター情報システム運用管理に関する規程

(5) 職員の労働条件の確保・環境への配慮

- ・労働基準法その他関係法令、社会福祉協議会の常勤嘱託就業規則等に則り職員が勤務しやすい環境に努めた。
- ・法令の遵守 再生紙（節税など）・職員一人一人が環境保全の意識を高め、省エネルギー対策及びリサイクルを促進した取り組みを実施。
- ・大阪市社会福祉協議会・区社会福祉協議会は地域福祉を積極的に推進するにあたり、住民主体の理念のもと、担当業務によらず、多様な主体との連携・協働に向け、社協職員として共通の価値観や基本的な考え方を共有するため、職員行動指針を新たに定め、その方針に沿って職員は行動を起こしている。
- ・再生紙を使用した上、極力両面印刷により用紙の節約を図った。

(様式 1)

- ・文書作成時、ミスにより片面印刷済用紙の裏面を再利用し用紙の節約を図った。
- ・ペットボトルキャップ回収ボックスを設置し、回収したキャップのリサイクルを通じて、認定 NPO 法人の実施する「世界のこどもたちにワクチンを提供する事業」に協力している。

6 収支決算状況

(単位：円)

収 入 (項目)		内 訳	計 画	決 算
	業務代行料	大阪市からの業務代行料	17,841,000	17,841,000
	雑収入	参加費収入	150,000	31,000
収入合計 (A)		—	17,991,000	17,872,000
支 出 (項目)		内 訳	計 画	決 算
	人件費	職員 4 名分	14,100,000	13,105,574
	物件費	事業費、管理費	3,891,000	3,357,385
支出合計 (B)		—	17,991,000	16,462,959
収支 (A) - (B)		—	0	1,409,041

【計画と決算の差額の主な理由】

- ・建物や設備の老朽化などに伴い、維持管理にかかる費用が増大した。

【経費節減のために主に取り組んだこと】

- ・LED 化を進め、光熱費のコスト削減に取り組んだ
- ・コピー及び印刷は再生紙を利用し、出来る限り両面印刷を行い節約に努めた。
- ・印刷を失敗した用紙については、裏紙として利用し用紙の消費を抑えた。
- ・必ず複数業者による比較見積で、安価に購入出来るよう努めた。
- ・備品について、出来る限り継続使用した。